

「純粹経験」とは何か
- 西田幾多郎『善の研究』を中心に -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
羽鳥 恵一

「私」とは何か、真の自己とは如何なるものか。これは非常に大きな問題であり、古くから問い続けられてきたものである。そしてそれは、現在でも決して色褪せることはない。しかも、このように問われる「私」とは、「私」だけの世界に生きているわけではなく、他者との関わりの中に生きている。「私」は他者との関係の中で、相互に関係しながら生きているのである。そもそもこのように生きる「私」とは如何なるもので、「私」が他者と関わるとはどのようなことなのであろうか。この問いをもう一度問い直すことが本論の課題である。

この問いを解きほぐすにあたり、ここでは西田幾多郎の思想、特に『善の研究』における「純粹経験」の思想を中心に据える。そもそも、西田は自己の問題と正面から向き合った思想家である。そのため、西田の思想との向き合いは、自ずから我々を自己の問題へと導いていくことに繋がる。したがって、西田の思想、特に「純粹経験」の思想の理解は、このような問題を解きほぐす糸口になると考えられる。

このような問題意識のもと、本論では西田の「純粹経験」から「私」が如何にして考えられ、「私」と「汝」との関係がどのようにして捉えられるのかを考える。具体的には、まず西田の思想の難解さがどこにあるのかについて論じ、次いで「純粹経験」とは如何なる性質のものであり、そこから真の実在や完全なる善行がどのようにして考えられるのかを論じる。そして最後に「純粹経験」の原理から「自愛」と「他愛」が如何に考えられ、またそこから「私」と「汝」がどのように位置付けられていくのかについて論じていく。その際、西田の後期思想にあたる『無の自覚的限定』にも若干触れ、「純粹経験」の思想がどのように後期の思想へと受け継がれていくのかについても考える。このように考えていく中で、「私」と「汝」がどのように出会い、如何にして「私」が「汝」を理解するのかを明らかにしていこうと思う。

我々がある思想家の思想と向き合うとき、向き合う我々の思想が厳しく問われる。これは西田に対しても当てはまる。西田の思想、そして西田その人の「生」との向き合いは、まさにそれと向き合う我々の思想、そして我々の「生」そのものを問い返すことへと繋がっていくのである。